

19歳女子の潜伏梅毒治療中起りたる Agra-muocytose と稱すべき1例に就て

- 1 臨床所見及経過概略
- 2 「サ」劑及蒼鉛劑の使用量
- 3 血液所見
- 4 血液「グルタチオン」
- 5 血液梅毒反應
- 6 「サ」劑皮膚反應

に就て検査せる結果を記載してある。

(中川抄)

**抗原液に酸、鹽基及び「アルコール」を添加して起る梅毒血清補體結合反應の變化に就て**

福田 正秀

皮膚科泌尿器科雑誌 46卷 2號

梅毒血清の反應實施に當り、一般に「アルカリ」を抗原液に混加すれば反應度弱く、鹽酸、「フェノール」又は日本藥局方純「アルコール」を混加すれば陽性度稍々上昇し、鹽酸及び純「アルコール」の三者を同時に混加すれば最も高度に陽性度の上昇を認める。斯くの如き陽性度上昇現象は、一方に於て抗體たる患者血清中の一部隠れたる又は偏在せる自家脂體が混加藥品により賦活されて能動性となると同時に他方抗原「エキス」の能力が增強される事に因ると信ずる。

(八木抄)

**陰囊表皮組織知見補遺 上有利層或は前顆粒層と下有棘層との區分像に就て**

北村 包彦

西村勝之輔

倉 晟訓

同 誌

著者等は初め陰囊血瘤例に、次で肉眼的健常な陰囊5例中2例に表皮有棘層の上下層間に截然たる細胞形態差別を認めたと、下層即ち大圓形核、多角形棘細胞層はその所見から推すと正常角化過程とは別種の一種特殊な増殖状態に在る。斯くの如き上下層の區別は、其の上層の横置紡錘棘細胞は本來正常角化過程によつて下層

の棘細胞、但し現在の特殊増殖状態に入る以前の夫れから推移したるものであらうが、下層の多角形棘細胞が特殊増殖状態に在る現在では、寧ろ、後者の層を縫ふて基底層から上向する細胞索又は連鎖によつて新生細胞を補給されつゝある觀がある。(八木抄)

**汗嚢腫、特に其成因に就て**

山口 正

加藤 五郎

同 誌

47歳家婦で、8年前より毎夏魚眼狀の深在性水泡形成が左右對稱的に顔面に限局發生する定型的の本症の1例を経験した。本例は組織學的所見より、汗腺排泄管部に於ける一種の腫瘍性増殖及汗孔部に於ける異常角化増殖に依るものと推測するものである。(八木抄)

**「タリウム」脱毛に就て**

大場 英雄

皮膚科泌尿器科雑誌 48卷 3號

(昭和14年9月)

醋酸「タリウム」、硝酸「タリウム」及び鹽化タリウム」の脱毛作用は殆ど同程度で、122例中2例に於て白内障を發生し、尙慢性及急性「タリウム」中毒症を觀察し、脱毛皮膚部に於ける組織學的所見を記載して居る。(八木抄)

**腎臟結核の統計的觀察**

高橋 明

植田 貢三

原田儀一郎

小杉 勁一

大越 正秋

花井 國夫

同 誌

著者等は昭和2年9月から昭和12年12月迄の10年4ヶ月間に於ける東大泌尿器科外來に於て949例の腎臟結核症例を経験し、此等の統計的觀察を行つたものである。(八木抄)

**結核菌の抗酸性脱却知見補遺(第1報)**

**硫酸の直接作用に依る結核菌の抗酸性脱却に就て**